



えん どう はる こ
遠藤ハル子 議員



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

公営住宅の除雪体制見直しと 車庫の設置を

村中町長

公営住宅での福祉サービスの利用について検討する

□質問・遠藤議員
12月になると「今年の冬は雪をどうしようか」「町内の事業所で除雪をしてくれるところがなくなつた」「自分も高齢になり、今まで出ていたが足腰が痛くて出来なくなった。頼みたいがどこへ頼んだらいいのか」との声を聴いています。

■質問
事前の調査では、公営住宅は町内13か所、車庫のある住宅は7か所と駐車場のある住宅は2か所、駐車場「なし」は4か所。どの住宅に住むかで「冬の除雪をしなくてはならない」、「しなくてもいい」で生活に差が出ています。

■質問
緑町の公営住宅など、建物ぎりぎりまで町が除雪しているところに住んでいる人は、便利な車庫があります（車庫代がかかっていません）。

■質問
特にあけぼの団地は建設から約30年が経ち、車庫がなく、駐車場の雪は自分たちで向かいの農地まで道路を渡って捨てに行っています。あけぼの団地は高齢者住宅のため、高齢者などの生活弱者が多く、毎年除雪の負担感が大きく、特に最近はお手上げ状態になりました。

■質問
公営住宅入居者の冬の生活安定のために、町が除雪をする、車庫を建てる、カーポートを設置する

■質問
ことが重要と考えています。9年間における様々な経験や体験を通じて、義務教育修了後の社会で生きていくために必要な力や身につける場として意欲的に学習や課外活動ができる環境の充実・発展に全力を尽くします。

■質問
植西議員 学びたいときに学びたいものを学ばせたいと思いますが、教育長の考えをお聞かせください。

■北川教育長 子どもたちのやる気を出させるには、アクティブラーニングが大切と感じています。多くの先生と関わりを持つことによつて、その能力、個性、良さを引き出すことに繋がります。そういった環境を整えていくことが大切だと思います。

■植西議員 不登校に対し、登校するだけではない教育環境をどのようにお考えですか。

■北川教育長 子どもたちの気持ちを最優先に考えながら、オンライン授業や空き教室の利用など様々な対応を考え進めています。

■植西議員 不登校であっても今は立派に社会で働いている子もいますので、義務教育の9年間で全てを判断することはできないと思います。

■北川教育長 比布町を故郷にした子どもたちが活躍してくれることを期待し、本町教育の在り方を十分考えながら進めていきます。

■質問
など行政からの具体的な政策が必要だと思えますが、町長の考えを伺います。

■質問
公営住宅については、入居時に「住まいのハンドブック」を渡し、清掃や除雪などについてお願いをしています。玄関周辺や車庫前の除雪については、入居者の皆様にお願いをし、来客用駐車場の除雪については、使用される方にお願いをしています。

■質問
ご高齢の方に対する除雪サービスは、町の福祉サービスもありますが、現状では出入口を共同とする、あけぼの団地などでは利用できない事になっていきますので、近隣の状況などを把握し、関係各課とも協議を深めながら、公営住宅での福祉サービスの利用について検討をさせていただきます。

■質問
車庫やカーポートについては、新たな住宅を建設する際には整備をしておりますが、既存住宅については現状でのご理解をお願いします。

■質問
あけぼの団地の駐車場の雪をどうするのかという話の続きですが、町民から「あけぼの団地の木を切り倒して、レンガを思い切っってはがして、平らにして

■質問
認知症サポーター養成講座の活用について

■植西議員 認知症の治療は日々更新され、症状の進行を徐々に遅らせるようになり、中核症状への対応技術が進歩しています。そのような全般にわたる情報を伝え、認知症に携わる方を増やそうとするのがこの講座です。どのように活用していくのか答弁願います。

■村中町長 老後の最大の不安である認知症は、それを支える家族や関係者にとつても深刻な問題です。しかし、周囲の理解と気遣い、地域の支えがあれば、穏やかに暮らしていくことは可能であるとも言われています。そのため認知症サポーターがチームを組み、本人やその家族の生活支援を早い段階から行う「チームオレンジ」を早期に設置し、支援活動の拠点づくりに努めます。

■植西議員 認知症サポーターをどのように設置するのか伺います。

■村中町長 より多くの方に参加してもらつて理解増進を図り、対応力が繋がれば良いと考えています。

※アクティブラーニング
アクティブ（積極的に・自主的に）
ラーニング（学ぶ）

■質問
はどうか。除雪機を入れるのではないか」という声についてはどう思われますか。

■村中町長 建設課で調査をして聞き取りなどを行いたいと思います。

■質問
遠藤議員 住宅の長寿命化計画の見直しの際に、何かもつと一緒に行えないかと思えます。先ほども言った「平らにして欲しい」という要望についても、もっと前向きに検討していただきたいと思えます。

■建設課長 令和7年度に長寿命化計画の見直しを行います。あけぼの団地については、現段階では雨漏り対応を考えています。

■村中町長 長寿命化計画の策定にあたって、今住んでいらっしゃる方の意見も伺いながら進めていきたいと思えます。

■質問
福祉の事業として、これまで建設課と保健福祉課の中で考え方が統一されていない部分もありますので、もう一度検討しながら、今後も雪の対策をしていきたいと思えます。



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

比布町教育の さらなる未来像は

北川教育長

義務教育学校の特性を生かし 教育の充実・発展に全力を尽くす

■質問
比布町の義務教育学校は先進事例として、道内外から視察を受けています。

■質問
教員が全児童生徒と関われるようになり、より先の学習を求める生徒が専門科教員と交流すること、探究を深められるようになり、このような取り組みが教育の町として発展するきっかけとなるように感じています。

■質問
教育長が考えている比布町教育のさらなる未来像についてお聞かせ下さい。

■答弁・北川教育長
義務教育学校は、1年生から9年生までの子どもたちが1つの学校という特質を生かし、9年間の教育課程において柔軟な学年段階の区切りを設定することができ、9年間の「連続性」を切れ目なく強固にすることや教員の専門性を生かした指導の充実を図ること、早期化する子どもたちの身体的・精神的発達に対応し個々の能力を十分引き出すこと、特別支援教育のスムーズな支援を図ること、豊かな体験を通じたキャリアの育成を図ることなど、多くの可能性を秘めており、本町にはそのような環境が必要でした。そして環境の変化に積極的に対応し、かつ変化を先取りした改革を進めていく

■質問
ことが重要と考えています。9年間における様々な経験や体験を通じて、義務教育修了後の社会で生きていくために必要な力や身につける場として意欲的に学習や課外活動ができる環境の充実・発展に全力を尽くします。

■質問
植西議員 学びたいときに学びたいものを学ばせたいと思いますが、教育長の考えをお聞かせください。

■北川教育長 子どもたちのやる気を出させるには、アクティブラーニングが大切と感じています。多くの先生と関わりを持つことによつて、その能力、個性、良さを引き出すことに繋がります。そういった環境を整えていくことが大切だと思います。

■植西議員 不登校に対し、登校するだけではない教育環境をどのようにお考えですか。

■北川教育長 子どもたちの気持ちを最優先に考えながら、オンライン授業や空き教室の利用など様々な対応を考え進めています。

■植西議員 不登校であっても今は立派に社会で働いている子もいますので、義務教育の9年間で全てを判断することはできないと思います。

■北川教育長 比布町を故郷にした子どもたちが活躍してくれることを期待し、本町教育の在り方を十分考えながら進めていきます。

■質問
認知症サポーター養成講座の活用について

■植西議員 認知症の治療は日々更新され、症状の進行を徐々に遅らせるようになり、中核症状への対応技術が進歩しています。そのような全般にわたる情報を伝え、認知症に携わる方を増やそうとするのがこの講座です。どのように活用していくのか答弁願います。

■村中町長 老後の最大の不安である認知症は、それを支える家族や関係者にとつても深刻な問題です。しかし、周囲の理解と気遣い、地域の支えがあれば、穏やかに暮らしていくことは可能であるとも言われています。そのため認知症サポーターがチームを組み、本人やその家族の生活支援を早い段階から行う「チームオレンジ」を早期に設置し、支援活動の拠点づくりに努めます。

■植西議員 認知症サポーターをどのように設置するのか伺います。

■村中町長 より多くの方に参加してもらつて理解増進を図り、対応力が繋がれば良いと考えています。

※アクティブラーニング
アクティブ（積極的に・自主的に）
ラーニング（学ぶ）



うえにし こういち
植西浩一 議員